



合格発表

3月20日

Sudden Fiction Project

高階經啓
hirotakashina

3月20日のおはなし「合格発表」

A「ベやあつくしょん！」

B「どないしました、風邪でっか」

A「ちゃ、ちゃ、ちゃ、ちゃいまつくしょう！」

B「チャイマク症？ それどんな病気や」

A「ちゃうちゃう。そやなしに、そ、そやなしに、か、か、か、かふああつくしょん！」

B「花粉症って聞こえた気がする」

A「それぞれ、花粉でんがな」

B「大変やね」

A「気の毒がってくれるんか」

B「気の毒やわ」

A「ほう？珍しい」

B「こんなムツサイおっさんにくつついてもうて」

A「はあ？」

B「ほんま気の毒や、スギの花粉たち」

A「おれを気の毒がらんかい！」

B「せやけどあれやね。いやなもんやけど、すっかり季節の風物詩になってしもたね」

A「まあそうやな、言われてみれば」

B「『合格発表』。すっかりこの季節の……」

A「花粉症ちゃうんかい！ いま花粉症の話、しとったんとちゃうんかい！」

B「知らんがな。きみが勝手にくしゃみしとったんや。今日のネタは『合格発表』や」

A「せやけどきみ、相方がこな、こな、こなあつくしょい、ちくしょう！ 相方がこない苦しんでんのに」

B「その日の朝ともなれば、そら緊張しますな。受験生もその親も」

A「シカトかい！」

B「桜にはまだ早い。梅桃あたりがちらほらとする季節」

A「おれの花粉症はシカトかい！」

B「花粉もたくさん飛んでおります」

A「あほ。そんならシカトしててくれた方がええわ」

B「あたりを真っ黄色に染めて舞っております」

A「くっしょん！ そない、ようけ飛ばさんどいてんか」

間をあげずネタに入る。

B（母）「おまえひとりで大丈夫かい？」

A（子）「ああ？ あたりまえや。ぶらっと行って見てくるわ」

B「おかあちゃん、一緒に行っただてもええんやで」

A「いらんわ気色悪い。何歳や思てんねん。おれもう大学行くねんで」

B「……行けるかどうか、わからんやん」

A「！ ちょー待て！ なんでそない不吉なこと言うねん！ いまから合格発表見に行くねんで、おれ！」

B「あ、いかん。つい本音が」

A「こぼすなや！ そないな本音、ぼろっとこぼすな、ここで！」

B「せやけどな。おまえみたいな、しょうもないC級のどんくさい子が大学なんかに受かるわけ……」

A「やかましわ！ 悪かったな、しょうもなくて！ C級で！ どんくさくて！ もう気分悪いから行くで……（歩き出す）……

ほんま頭くるわ。なんやねんC級で！ なんちゅう言い草や。ほんま、実の親やと思われへんで」

B「実の親やと思とったんか」

A「ついて来なや！ ってか、実の親と違（ちご）たんかい」

B「話せば長い話なんやけど」

A「マジなん、それ？」

B「黙ってて悪かったと思てる」

A「ちょ、勘弁してえな。今日は合格発表だけで十分大変なんやから」

B「そらそうやけど、お前が大学に合格するその日に教えることになっとなんや。この話」

A「なんやねんそれ」

B「おまえの実の親から頼まれとってん」

A「ど、どういうことやねん」

B「このことは、この子が大学に合格するその日に伝えてくださいって」

A「え————。マジなん、この話」

B「それまでは、どうか一つ、このことは伏せて育ててやってください、て、袖にすがりつかれて泣かれてなあ」
A「いつの時代やねん！ スカイプで海外とテレビ電話できる時代にどんだけ浪花節な設定やねん」
B「そういうわけで、わたしらは育ての親なんや。立派に育ててくれてうれしいわ」
A「そんなんいきなり言われても」
B「ま、今日初めて伝えてるわけやからね」
A「なんで冷静やねん」
B「ほらほら、大学着いたで。はよ見にいかんと」
A「なんでそない冷静やねん。今話してたん、めっちゃ大事な話やん。……あれ？」
B「どないしたん」
A「『この子が大学に合格するその日に』って。あかんやん。まだ結果わからんやん」
B「あ……それはええねん」
A「何がええねん」
B「だって見たもん」
A「何を？」
B「ネットで。今朝。合格発表張り出した人がブログに写真でアップしとったもん」
A「ぶっ、ぶちこわしやん！ 何やねんそれ！ おれごっつ緊張して合格発表見に来とんねん！ まだ見てへんねん！ なんで先に見んねん！ そして言うねん！ ああも—————最悪やで」
B「せやけどおかあちゃんも心配なんやんか。ほらほら掲示板見えて来たで」
A「もうええわ。見とないわ。結果わかっとなのに、なんも嬉しないわ」
B「おまえの番号何番やった？ あるかなあ、あるかなあ」
A「ええ？ もう、そんなしらじらしいことせんとして。ほんま最悪や。えーとこれや。ああ、あったあった。おれの番号あったわ。おかあちゃんの言う通りや、ほらあそこに……どないしてん」
B「ひ、ひやああ！」
A「な、なんやねん」
B「ほ、ほ、ほんまにあった」
A「見たんちゃうんか、ブログで！ 写真を！」
B「うえっえっえっ」
A「なんやねん。何、泣いとんねん」
B「ば、ば、ばがらへん（わからへん）」
A「おかあちゃん……」
B「お、おがあじゃんぼ、がぶんじょうになっだみだいやわ（おかあちゃんも、花粉症になっだみだいやわ）」

(「合格発表」 ordered by kyouko-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project (以下SFP) 作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする (Twitter)」「いいね! (Facebook)」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ!」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート (RT)、「いいね!」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね!」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募!お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ! はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

合格発表

<http://p.booklog.jp/book/46696>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46696>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46696>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.